



虫の目、鳥の目通信 第15号



会員募集中!

2007年9月15日

2007年8月25日 簡保レクセンター跡地 自然観察会 大人12名、



厳しい今年の残暑にもめげず、集まって下さった12名でまわりました。当日は中セキ農機さんの展示会が開かれており、時折大型バスが行き来していました。



駐車場で集合中鳴いていたのはホオジロの♀、尾羽の白い部分が見えた人もいたみたいです。突然の雨。大あわてで傘をさしました。シナサワグルミの枝で雨宿りしていたのは、最近少なくなっているというコムラサキ、翅も結構いたんでおり、いろいろなことがこの蝶におこったのだらうと思いました。

水際のある池の東にあるグラウンドはヤハズソウが群生していました。雨も止み、葉をちぎって、矢筈草、納得です。草地にはショウリョウバッタの大きなメス。子どもの時、後脚を持ってギコンバッタンと遊んだと山本さん。クルマバッタの幼虫らしきものの顔を見てびっくり。青い線がとてもきれいでした。

カラスが騒いでいるので丘の上を見ると、サンバ。気づいたのは松下さんでした。



水際のある池のそばは、草刈りの予定という話して、その場所にアイナエとヒナノカンザシの種を蒔きました。一旦止んでいた雨がまた降り始め、雷もなり始めましたので、観察を中止し、埋蔵文化財調査センターでの話し合いに向かいました。



ちょっと立ち話

三国の里山で、今も片無双網猟をしているという方にお話を聞くことができました。(尚かつこなしが松永の間です。)

あの猟は夜行われるようですが、毎晩見に行かれるのですか? 「いや、そうじゃないよ。長年の勘というかね。餌をまいて様子を見ていて、来ているかどうかはわかるからね。それにカモはとても頭がいいから、ちょっと何かあると来なくなる。そうだね。猟をするのは月に1回くらいだね。」えっ、そんなもんですか? 「そうさ。最初は夕方だ。夕方一度猟をすると、もうその時間には来なくなる。だから、次の猟は夜中。そして、夕方夜中も来なくなるから今度は明け方というふうに、時間もずらしてするよ。あいつらとの知恵比べだね。」

今年はどうなカモがかかったんでしょう。「カルガモ、この辺ではタグロというかね。それからマガモにコガモだよ」淵田堤には今年相当コガモが入っていたようですが、「そうね。それにしては少なかったな。どうもこっちはあまり来なかったようだね。あちこちに池があるからそっちに回ったかもしれんね。」

昔は井ノ浦公園の池はものすごく良かったということですが。「昔はね、井ノ浦に集中していたんだ。それでこの池で1年間の権利を買って猟をしていたが、それ以外の池や深田では、餌を撒いて寄せていた。餌をまかなければ来なかったんだ。私は皆が減った減ったと言うけれど、そうではないように思うがね。集中していたのがばらけたと言う風にね。」「野鳥の会の人なんかは、すぐに数が減った、獲ったらいけんっていうやろ。」あはは・・・、私もその野鳥の会に入っています。「そうさ、そんなら聞か、あんたたちは、昔ここに住んでおったか? おらんじゃろう。なんでわかるかね。」でも、トモエガモなどは相当減っているようですが。「ああ、あれはものすごく減ってしまった。ウイルスかなんかじゃなからうか。野鳥の会より猟友会の方がましだよ。あの人たちは、猟でキジを捕るからちゃんと放鳥もしている。」ああ、猟友会の方々だったのですね。私は、何でキジを放してるんだらうと思っていました。私は野鳥の会にも所属していますが、それぞれの地方で昔から行われていた暮らしというか、やり方、文化というものがあると思っています。だから、無双網に反対しているわけではありませんよ。

ところで、一番おいしかったのは? 「そりゃ、トモエガモさ。あれは旨いよ。コガモもおいしいね。今の人は合鴨ばかり食べてるだろうから本当のカモの味なんかわからんかもしれんがね。だが、ヒドリガモはあんまり旨くない。あれは、草ばかり食べたりするじゃろ。やはり、穀類を食べてないのはうまくない。イノシシだって密柑山のは不味いからね。」

オシドリがかかることはないですか? 「ああ、あるよ。かかったら放すよ。あれが入ると他のカモが入りにくくなるからね。ありゃ、強いもんなあ、ボスだよ。」ああ、私もそんな風に思ったことがあります。いつだったかサギが岸にいましたら、オシドリの雄がどんどん近づいて追っ払うような行動にでましたもん。やっぱりそうですか。無双網を今もされている方にお話聞けて良かったです。なかなかいらっしやなくて。「そうね。まだ、何人かはおるがね。だがな、・・・・もうなくなってしまうだろうな・・・・」



放鳥されているというキジ。この雄は筑紫野市側にいました。さて、このキジが見ていたものは・・・ 次のページ

2007年8月21日キジが見ていたものは・・・
大規模開発されたモールです。



← キジがいたのは、この緑の帯の部分。住宅との境のグリーン、幅5mほど。一旦草の中から姿を現しキョロキョロした後、また草の中に消えました。この緑帯はモールの東側と北側にあります。そして、左のクリーム色のお店の向こう側にはこんな景色 ↓。



実は、↓ 2006年10月16日にはまだ茅場がありました。



← 奥の竹林が切り倒されていたものの、イグサの仲間やアキノウナギツカミなど水を好む植物が沢山生えた湿地、そしてその周りにミズスギ、ヒメオトギリ、タヌキマメなどが生え、さらにチガヤやススキ、ナンバンギセル、アイナエなどのある茅場が広がっていました。

そして、2006年12月30日には、↓ すべてがなくなり、茶色一色に。



この場所に以前いたもので、環境の変化で絶滅したと思われる生きものです。ゴイシジミなどの林縁の蝶、ホソミオツネトンボ、ホソミイトトンボ、アオモンイトトンボ、アオイトトンボ、オオアオイトトンボ、ギンヤンマ、ヤブヤンマ、オニヤンマ、ハラビロトンボ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、タイリクアカネなどの湿地や池のトンボ、ヒメガムシやニホンアカガエル、ドジョウ、そしてノウサギなどです。 蛇足：「車がないと行けない店ばかり増えちゃって！ 年をとって車が使えなくなったらどこで買い物したらいいの」という声を聞きました。

「子どもの頃飲んだ湧き水、おいしかった！」

三木さんご夫妻と三国を観察中に、「三国では水が湧いていた」というお話を聞きました。「お盆のハスの花を切った後、泥だらけになった手をその水につけた途端、どんどん湧き出る水であつという間にきれいになったのよ。この辺だったと思うんだけど。三沢には三つの口があって水が湧いているとなつたのよ」



ということで湧水地を探すことに。湧水地の一つ「一の口」は私も行ったことのある谷地でした。今は耕作放棄地の夏草に覆われていましたが、わずかながら水がでていました。そこから溝が続き少し南に三木さんの奥様が手を洗われた場所があり、今も湧いていると地元の方をおたずねしてわかりました。「子どもの頃飲みよつた。あの水、旨かつたもんな」とのことです。

三沢に湧水があつたので、丘陵の他の場所でも聞いてみました。横隈の神社の池は今でも水が湧いていると藤田さんが調べてくださいました。原田では基山のそばに行場があつて沢水はあつたそうですが、湧いているという感じではなかつたとのこと。津古にも湧き水はない、ということでした。でも、カモ猟で山を歩き回るとき、三沢の「一の口」ではないかと思われる場所で水を飲んでいたので。「50年ばかり前の話、水筒なんて持って歩かんからね。確か谷地の杉じゃないかと思うが大木のそばで湧いとつたよ。その当時一緒に猟をしていた50歳くらいの人たちは、昔そこに五右衛門風呂を運んで水を湧かして風呂に入ったそうだよ。」というお話を聞きました。



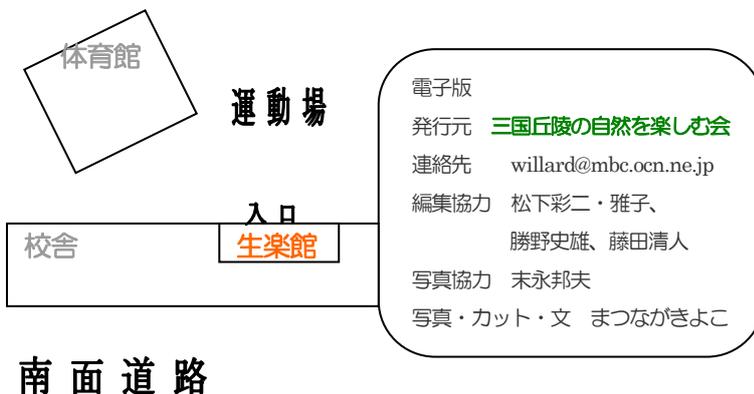
新入会 栗津信枝

次回予定 9月30日(日) 9時30分集合 簡保レクセンター跡地
跡地の場所に名前を付けます 尚、11時から13時まで**自然観察冊子作成の話し合い**を希みが丘小学校内「のぞみがおか生楽館(しょうがかん)」

0942-75-6607で行います。駐車場は小学校の南面道路から入ります。小学校の校舎の1階です。皆様のご参加お待ちしております。お腹がすく方は、**おにぎり**でも持ち下さい。

その次は、10月27日(土) 9時30分集合です。

駐車場



電子版
発行元 **三国丘陵の自然を楽しむ会**
連絡先 willard@mbc.ocn.ne.jp
編集協力 松下彩二・雅子、
勝野史雄、藤田清人
写真協力 末永邦夫
写真・カット・文 まつながきよこ